

1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

月 日 曜日

栗野岳の主を読んで

吉松小学校 六年 川添 悠吏

五年生の国語で、栗野岳のふもとの三日月
池が舞台になっていて、大造じいさんとガン
という物語を学習した。栗野岳は、ぼくの住
む湧水町にあり、すぐそこに見える山だ
から何だか親しみをもつことができた。そし
て、ぼくは、他にも栗野岳が舞台になっ
て、モモンガーという物語があることを知り、
栗野十さんの作品をもつと読んでみたいと思
った。その中でも、「栗野岳の主」という物
語に興味をもった。
栗野十さんの作品の特徴として、動物を中
心とした話が多く、この物語にはイノシシが
登場する。これまでのぼくのイノシシに対す
るイメージは、「走り出したら止まらな
い」だった。この物語を読んで、冷静に考えるこ
とができる生き物であるというイメージに変
わった。
特に心に残ったのは、「栗野岳の主」はバ

No. 1

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

月 日 曜日

りつとどんぐりの夷をかみくだこうとして急
に背中を逆立てた。という場面だ。吹い
てきた風にたくさんの犬のにおいが混じって
いると分かった。ささらに自分たちに危険
がのしかかっていることを察知したからだ。
ぼくも家族からおいに敏感だとよく言わ
れる。祖母の作るカレー、お好み焼きにお
い、台ふきの臭いなど、家族が気付かないに
おいに気付くからだ。それでも、主の嗅覚や
本能にはかなわないと思つた。ぼくも主と同

じように敵のにおいを感じることもできたら、
きらいな物のおいを感じることもできたら
とうらやましく思つた。
また、主が十五匹のオと戦つた場面も心に
残つた。敵が十五匹もいるのに、家族を守る
ためにあきらめず戦い、深い谷底に落ちても、
家族のいる巣まで戻つたからだ。かなりの傷
を負つても、家族がいるから生きなればと
いう気持ちが強かつたのだと思う。ぼくにも、
どんな時も味方でいてくれる家族がいる。両

No. 2

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終つたら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

月 日 曜日

親、祖父母などたくさんいる。きつと「主」
のような気持ちでぼくを守ってくれているの
だろうと思う。

この物語を読んで、身近にある栗野岳とい
う大自然に「主」がいるかもしれない、家族
を守るために必死に生きている動物たちがい
るかもしれないと思うと、ぼくはドキドキし
てきた。

また、「主」からはあきらめず行動するこ
とを学んだ。ぼくは、できないと投げ出して

しまいたくなることもある。弱音をはいてし
まうこともあるけれども、これからは限界ま
で挑戦してみようと思う。

そして、ぼくたちは自然と共存していて、
人間も動物もそれがれの思い、考えがあつて
生きていると改めて感じた。命の重さは、人
間も動物も同じで、決して無だにしてはいけ
ないのだと思う。

ぼくもいつか親になる日かくるかもしれない
い。その時は、「主」のように堂々と家族を

No. 3

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)



1 文章の組み立てをくふうし、中心のはっきりした文章を書きましょう。
2 段落の初めは、必ず一字下げて書き始め、段落ごとに行を変えましょう。

（ ）月 日 曜日

守り、命の大切さをしっかりと伝えられるよう
にしたい。

20x20 grid for writing practice.

3 詩はどの行も三ばんめのマスから書き頭をそろえましょう。
4 書き終ったら、何回も読み直して、まちがいを直したり、書き足りないところを書き足し、むだなところはけずりましょう。

(不許複製)

